

派遣者番号	管 30K10	氏 名	綿貫 俊之
研究主題 —副主題—	高等学校における自己の資質・能力の向上に向けたeポートフォリオ活用に関する研究		
派遣先	東京学芸大学教職大学院	担当教官	福本 みちよ
所属	教育庁指導部指導企画課	所属長	石田 周

キーワード：高大接続、学力の3要素、eポートフォリオ、自己効力感

1 研究の背景・目的

(1) 研究の背景

文部科学省は、平成29年7月に「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに関わる予告」を発表した。この中で、高等学校段階における受験生の「学力の3要素」の多面的な評価に向けた改善が示され、入学選抜の出願書類において、学校の内外で意欲的に取り組んだ活動を盛り込むよう改善策が示されている。そこで、文部科学省は、大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）として、調査書や高等学校段階における活動を十分に把握するためのeポートフォリオ、インターネットによる出願システムや主体性等を評価するためのモデルの開発を行っている。

(2) 研究の目的

高等学校では、令和3年以降に実施される大学入学者選抜に向け、平成29年度から文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業にて構築・運営を開始したeポートフォリオシステム「JAPAN e-Portfolio」を活用し、生徒が自らの基本情報や学校での活動記録等を保存するようになった。しかし、多くの高等学校では、eポートフォリオについて、新たな大学入学者選抜への対応としてのみ考えられ、趣旨や目的の詳細が十分理解されないまま進められてしまっており、ポートフォリオ本来の趣旨についての十分な理解と活用の促進が図られていない。

そこで、本研究では、生徒の学びを生み出すeポートフォリオを用いた活用の在り方について検討することを目的とする。

2 研究内容・研究の方法

本研究は、以下の要領で進めた。

- (1) ポートフォリオの目的と特性
- (2) 小中高等学校におけるポートフォリオ

に関する先行研究分析

- (3) eポートフォリオの活用実態の分析
- (4) 研究分析から考えられるまとめ

以上のことから、生徒の学びのサイクルを生み出すeポートフォリオの活用の在り方について検討する。

3 研究の結果

(1) eポートフォリオの目的と特性

eポートフォリオは、記録し保存された内容をデジタルデータとして取り扱うことができるため、情報通信ネットワークでのやりとりが容易である。

竹内(2016)は、eポートフォリオ学習は、「省察」、「記録・証拠資料」、「共同作業・メンタリング」の3つの要素から成り立つとした。特に「省察」については、探究的活動において、自らの行動や思考を客観的に振り返り、具体的事実とそれを抽象化させたものを自らのやり方で言語化していく作業であることを述べている。

(2) 小中高等学校におけるポートフォリオに関する先行研究分析

これまでに小中高等学校におけるポートフォリオを用いた探究的活動につながる実践のうち、自己の資質・能力の向上が確認された実践研究論文(37件)について、その有効性を高めた原因を探り、これらの実践研究論文を三つのカテゴリーに分類した。

ア 「授業設定」(23件)：ポートフォリオに記すタイミングや表現方法に留意させ、授業形態に工夫が見られたもの。

イ 「評価方法」(11件)：ルーブリック評価や授業評価モデルを用いて評価方法に工夫が見られたもの。

ウ 「単元工夫」(3件):各単元を小単元に区切り、持続性をもたせた授業として構成されたもの。

以上の実践研究論文の中で、共通することとして、いずれも、児童・生徒が探究活動を行うことで、学習する意欲と自己効力感を高め、自己の資質・能力の向上をもたらしている。

(3) eポートフォリオの活用実態の分析

eポートフォリオシステムを活用している学校に対し、実際に訪問し、その活用状況について聞き取り調査を行い、現状と課題について分析した。

①都立A高等学校

同校では、生徒に多様な資質・能力を発揮させる活動を設定し、それらを多面的に評価するため、eポートフォリオを用いて長期的な視点で生徒が自らの成長や変容をメタ認知できるようにすることを目的としている。学校での運用について、教員が各分掌で役割を分担し生徒に対して指導を行うが、生徒の入力に際し、「進路係・探究係」というメンター役を生徒にさせ、生徒同士が自主的に学び合う形式で実施している。

②私立B中学高等学校

同校では、中高一貫6年間の学習を想定してカリキュラムが組まれており、生徒自身がどのような学習成果や課題に関心をもっているのか省察し、どのように自己の将来を掘り下げていくかを探究させることを目的としている。現在、各教科での課題の提出や保存の他、SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト校としての探究活動を中学校3年間と高等学校第1学年の間に実施しており、総合的な学習の時間や教科「情報」の授業内での取組における省察や、グループ内の協調学習をオンライン上で実施している。

両校の実践では、次の課題が挙げられた。

- ・特定の教科に活用が偏っている。
- ・自己肯定感が得られるか未知数である。
- ・ポートフォリオ記述における評価と今後の指導が定まらない。
- ・目標設定から振り返りまでの記録についての回答方法に差が生じている。
- ・内容項目によっては、係担当の生徒に気軽に聞くことができないことがある。
- ・生徒が一斉に入力すると、通信速度に影響し、作業が進まない。

4 研究の考察

eポートフォリオを用いて生徒の学びのサイクルをもたらすために、本研究から得た重要な視点に基づき、以下に述べる。

(1) eポートフォリオの具体的な導入から利活用に至るまで

高等学校では、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、各学校が育成を目指す資質・能力と育成するために必要な教育活動を示したグランドデザインを作成し、示した教育活動にeポートフォリオを位置付ける。eポートフォリオの活用にあたり、必要な項目を列挙し、担当教員を割り当て、生徒が入力したデータについての確認(承認作業)を行う。これを1年度1サイクルとし、全教職員で振り返り、次年度へ引き継ぐ。

(2) 生徒の学びのサイクルを生み出すポートフォリオの活用

学習活動は、生徒が自ら疑問をもち、解決したい課題を設定し、自力で解決する。生徒同士や教員との対話により、解決したい内容を整理し、その解決のためにどのような行動が必要なのかを考え、取り組んでいく。その後、どのように活動を行ったのか、また何が分かったのか、更に新たに生じた疑問は何かなどを振り返り、生徒が自己評価を行う。

また、自らの意見と他者の意見の違いについて把握し、教員だけでなく他者からの意見(相互評価)をもらうことにより、自己効力感を高め自己の資質・能力の向上につながる形の学習としたい。

高等学校では、平成31年度から「総合的な探究の時間」が実施されるが、探究活動実施に向けたカリキュラムの編成・実施において、生徒の課題解決力を育むことができるよう工夫する。

5 今後の展望

今後、eポートフォリオの入力項目を定め、目標設定や振り返り記述のポイントなど、活用方法全般について、生徒に指導し、学習活動を行う。活動記録の振り返り等を確認し、自己評価や相互評価を通じて、生徒が、自己の変容を確かめられるか検証する。また、検証を通じて、高等学校におけるeポートフォリオ活用方法について新たな課題を見だし、その解決策を検討していく。